

広報せとうち 1 令和5年 月号

絆で創る、魅力あふれる豊かな町づくり | みんなで早寝、早起き、ラジオ体操、朝ごはん！



まちの人口と世帯 住民基本台帳 令和4年11月末

人口 | 合計
8,435人 (前月比: -9)

人口 | 男
4,162人 (前月比: -5)

人口 | 女
4,273人 (前月比: -4)

世帯数 | 合計
5,165世帯 (前月比: -5)



もくじ —information—

- 02 | 新年のご挨拶
- 05 | 1月のお知らせ「町営住宅入居者募集」ほか
- 21 | 古仁屋高校生職場体験日記
- 22 | まちのできごと
「第15回2022加計呂麻島ハーフマラソン」ほか
- 26 | 古高だより
- 27 | 戸籍の窓
- 27 | 1月休日当番医のお知らせ

「人が輝く 夢と希望に満ちた 魅力あるシマ」を目指して

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

町民の皆様をはじめ全国各地でご活躍の皆様方におかれましては、心新たに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

まず初めに、世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症拡大防止及び収束へ向けて、常に危険と隣り合わせで献身的に業務にあたっておられます医療従事者の方、そして、時短営業の要請に、苦渋の決断としてご協力くださった事業者の方、活動の制限へのご協力をいただいております。また、心新たに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

未だコロナ収束の気配

の见えない状況の中ではありますが、本町もウィズコロナ時代を見据え、一刻も早い経済の回復を目指すため、感染症予防対策や経済回復に向けた分野の施策を最優先課題として取り組んでまいります。

また本年においても、瀬戸内町長期振興計画に掲げた分野別の各計画における事業を推進するための『海洋のまち“せとうち”みらいプロジェクト』の体制構築を図り、本町の未来を起点としたブランドデザインの基本構想を定めつつ、「町民サービス」「教育」「行政運営」にデジタルファーストで取り組み、人に優しいデジタル化により持

続可能なまちづくりを推進する『瀬戸内町デジタル未来宣言』に基づいた

取組を実施しながら、「誰ひとり取り残されず、幸せで輝いて生きていけるシマ」「夢と希望をもつて力強く生きていけるシマ」「いろんなことにチャレンジできるシマ」、そして、「ひとが輝く夢と希望に満ちた魅力あるシマ」の基本理念の基に、町政運営に邁進してまいります。

全ての町民が幸せに安心して暮らせ、若者が希望を持って働きチャレンジでき、故郷を遠く離れた辛苦の中で日本の発展のために尽力されてきた先輩や仲間たちが安心していつでも帰れるまちを

作ることが私の使命です。

今後も町民・全国の郷友会・役員職員が一体となつた、より強固な「チームせとうち」を作り上げ、皆様の声に耳を傾け心に寄り添いながら全身全霊で取り組んでまいりますので、皆様方にもより一層のお力添えを賜りますようお願いいたします。

結びに、新しい年が皆様方にとりまして、希望に満ちた幸多き年になりますよう心から祈念申し上げます。新年の挨拶いたします。

瀬戸内町長

鎌田 愛人

KAMADA Naruhito



「町民に信頼され存在感のある議会」を目指して

あけましておめでとう
ございます。

町民の皆様をはじめ、
全国各地でご活躍されて
おられます皆様方におか
れまして、ご健勝で希
望に満ちた輝かしい新年
をお迎えのこととお慶び
申し上げます。

また、日頃より私共の
議会活動に対しまして、
ご支援ご協力を賜ってお
りますことに、心より深
く感謝申し上げます。

さて、地元出身の明生
関の活躍や古仁屋中相撰
部の古豪復活、新極真空
手においても本町の子ど
もたちが全国で優秀な成
績を収めるなど町を元気
づける明るい話題となっ
ております。

また、5年に1度開催
される和牛オリンピック

において鹿児島が日本
一と評価され、全国にお
いしい和牛の産地として
認められました。

一方で、未だ終息の見
えないコロナウイルス感
染症は、予断を許さない
状況にあり、引き続き町
民の皆様と共に万全な感
染防止対策に取り組んで
いかなければなりません。

また、ロシアによるウ
クライナ侵略により世界
経済における農産物、エ
ネルギー資源への影響が
出ています。その上、円
高による物価の高騰が生
活基盤を揺るがしてもお
りません。今後はその中で、
低迷している商工業、観
光業、農林水産業等へき
め細かな支援と育成強化
を図り、町民の生活の安

定化、新たな産業及び雇
用の創出に取り組む必要
があります。

更には、本町の振興発
展の基となる「瀬戸内町
長期振興計画」や策定中
の「瀬戸内町グランドデ
ザイン」を確実に実行す
るために、私共議会とい
たしましても、町当局と
一体となって取り組み、
持続可能な開発目標（S
DGs）及び「瀬戸内町
ゼロカーボンシティ宣
言」に繋がる議会活動を
行つてまいります。そし
て、町行政の監視及び評
価機能の充実強化を図る
と共に、議員間の活発な
議論により政策立案、提
言のできる議会へと議会
改革を進めてまいりま
す。

更に、町民全体の福祉

の向上及び町政の発展に
議員一同全力で取り組
み、「町民に信頼され品
格と存在感のある議会と
新たな持続可能なまちづ
くり」を目指したいと思
います。

どうぞ、本年も議会活
動に対しまして、皆様の
ご支援ご協力を賜ります
ようお願いいたします。
結びに、本年が皆様にと
りまして、実り多い年
でありますよう祈念申し
上げまして、新年の挨拶
といたします。



瀬戸内町議会議長

向野 忍

KONO Shinobu

「自ら学び、ともに磨き合い、

シマを興す人づくり」を目指して

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

新春を迎えるにあたり、瀬戸内町の一層の発展と子どもたちの健やかな成長を心から祈念いたします。

長引く新型コロナウイルス感染症の影響下ではありますが、教育現場では、子どもたちの学習の遅れや不安を解消し、全ての子どもにきめ細かい指導を行き届かせようと取り組んでいます。

昨年は、念願でありました「新給食センター」が完成いたしました。

今後においても、安全安心な学校給食の提供は元より、食育の拠点施設としての機能強化・充実を図ってまいります。

さて、コロナ禍の影響もありますが、ソサエティ5・0への変革期を見据え、学校教育も大きく変化しております。児童生徒一人一台のタブレット配付も完了し、授業での常時活用を進めているところであり、これまで以上に「思考力・判断力・表現力」を身に付ける教育が求められています。

教育委員会では昨年、二十一世紀に生きる心豊かな人づくり「自ら学び、ともに磨き合い、地域（シマ）を興す人づくり」を基本目標として、瀬戸内町教育振興基本計画を策定いたしました。

年頭にあたり、同基本計画の方針に沿った教育

行政施策の概要をご説明いたします。

学校教育では、道徳教育や人権教育の充実と共に、教師の更なる授業力向上を図ってまいります。

またGIGAスクール構想の推進や屋内運動場及び教員住宅整備を含め、教育環境整備を充実させてまいります。

文化面では、学習発表会、子ども島口伝統芸能大会も益々充実しており、今年が奄美群島日本復帰七〇周年という節目の年という事もあり、郷土教育の更なる充実を図ってまいります。

社会教育では、未就学児における運動能力の向上、子ども会活動、生涯

スポーツや公民館講座等の生涯学習の充実、文化財の保存活動や近代遺跡調査・啓発活動の推進、環境教育や読書推進事業にも積極的に取り組んでまいります。

結びに、町民の皆様にとりまして、新しい年が希望に輝き、幸多い年でありますことを心からご祈念申し上げます。年頭のご挨拶いたします。

瀬戸内町教育長

中村 洋康

NAKAMURA Hiroyasu



令和5年
278号

1月

この地で育てる

めばえ

先日、鹿児島大学教育学部の学生さんが12名「離島の学校の教育を知りたい」と本校を訪れて一日を過ごし、授業参観や子供たちとの触れ合い活動を行いました。

この日、本校を訪れた学生さんは全員離島に来るのが初めてということで、教員になり離島に赴任することに対して、少人数の子供たちの人間関係や複式授業、島での生活など、不安を大なり小なり感じていたようです。

本校で一日を過ごし、一人一人に目の行き届く少人数指導や、伝統芸能島唄の取組、全校児童生徒で遊ぶ昼休みの様子など、見たり体験したりして、この地に住んでいると当たり前のことも、すべてが新鮮で素敵に感じた感想を聞くことができました。

奄美の豊かな文化や自然、子供を大切にして地域を挙げて学校を大切にしてくださる地域性等を理解してもらうことができました。

大学生の感想

- ◇ 先生方の授業を見て、子供とのやり取りに温かさを感じました。そして、温かさの中にも、やるべきことはしっかりとやらせるメリハリのあるご指導をされていたため、その切り替えが、子供たちはよくできていると感じました。
- ◇ 今回、一番印象に残っているのは、小中学生の学年関係ない仲のよさです。昼休みも一緒にサッカーをさせてもらいましたが、本当に全員楽しそうで、中学生のリーダー性や下級生の先輩たちへの信頼する気持ちに驚かされました。
- ◇ 私は、この実習に参加するまでは、教職のブラックな部分ばかりが気になってしまい、教員になりたいという気持ちが薄れつつありました。しかし、今回の実習を通して、子供たちと触れ合う機会が持てたことで、改めて教員になりたいという思いを強くすることができました。



この文章を読まれているのは、子育て真最中の方々と思います。
この地で子育てができることの素晴らしさを感じ、ふるさとに誇りを持つ子供を育ててください。

2月の
ご案内

かな保育園
です。



今月の担当者
篠川小中学校
校長 吉鶴 正樹